

<連携支援部会（共通分科会）提言>

「高等部卒業後の明るい未来に向けて～学校・家庭・地域との連携について考える～」

北海道函館養護学校 教諭 脇澤 敏美

1 はじめに

本校高等部は、肢体不自由以外の障がいを併せ有する重複障がいの生徒が在籍する。生徒の障がいの状況は、医療的ケアが必要な生徒から独歩の生徒、また近年は病弱の生徒の入学が増えている。生徒の学習の状況も様々で、個に応じた指導に取り組んでいる。

高等部は「出口の教育」といわれ、最後の学校生活の場であるとともに卒業後の生活にスムーズに移行するための準備をする必要がある。生徒一人一人の進路希望や生活のニーズは様々であり、それに応じた適切な進路の選択・決定に向けて、担任と保護者、進路担当はもちろん、地域（医療、福祉、役所など）とも連携をしながら進路指導に取り組んでいるが、必ずしも希望やニーズに合うとは限らず、まだまだ地域資源やサービスの内容・質などについて、要望や課題が多くみられているのが実情である。

以上のことから、本校高等部の進路指導の具体的な取り組みの状況や課題等を踏まえ、卒業後、本人にとっても家族にとっても明るい未来、すなわち希望やニーズに応じた、生きがいのある充実した生活を送るためにはどんなことが必要なのか、それを実現させるためには学校・家庭・地域がどのように連携していけるとよいのかについて考えていきたい。

2 本校高等部の進路の状況

**高等部の進路の状況
～過去 5 年間～**

卒業年度	卒業生	施設入所・入院	施設等への通所		その他
			就労系サービス (自製・移住・作業所等)	介護系サービス (生活介護、デイサービス等)	
平成 25 年度	5	0	1	3	1 (一般就労)
平成 26 年度	2	0	1	1	0
平成 27 年度	6	0	2	3	1 (自宅療養)
平成 28 年度	4	1	2	1	0
平成 29 年度	2	0	0	2	0

**高等部の進路の状況
～平成 28・29 年度卒業生の週間スケジュール例～**

	月	火	水	木	金	土	日
A	生活介護 A	生活介護 B	生活介護 B	生活介護 B	生活介護 A	自宅	
B	作業所 (就労継続支援)	自宅	自宅	作業所 (就労継続支援)	自宅	自宅	
C	施設入所					自宅	
D	作業所 (就労移行支援)					自宅	
E	生活介護 A	生活介護 A	自宅	生活介護 A	生活介護 A	生活介護 B	自宅
F	生活介護 A	生活介護 B	生活介護 A	生活介護 B	生活介護 A	自宅orショートステイ	

**高等部の進路の状況
～進路決定への取り組み～**

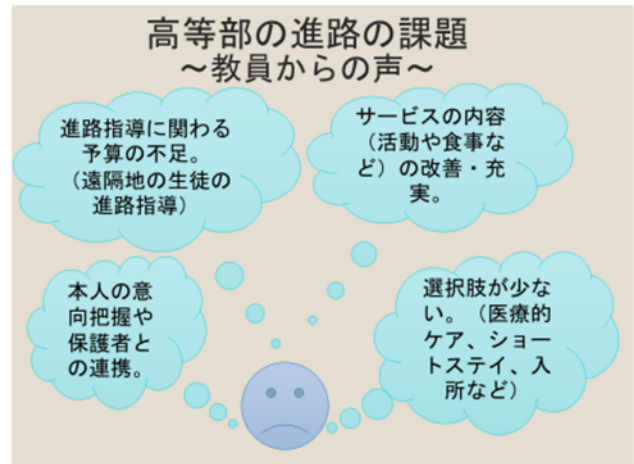
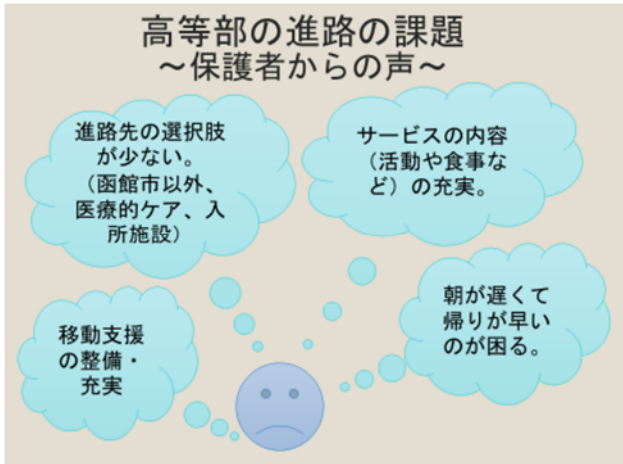
- ◆ 1 年生～施設見学
 - ★いろいろな施設を見学する
 - ★支援会議（5月）で進路の方向性を話し合う（進路・担任・保護者）
- ◆ 2 年生～体験実習
 - ★自分に合うところを見つける
 - ★卒業後のイメージ作り
 - ★個別の教育支援計画の活用
 - ★前提実習先の決定（2月）

**高等部の進路の状況
～進路決定への取り組み～**

- ◆ 3 年生～前提実習
 - ★卒業後に利用希望の事業所
 - ★個別の教育支援計画の活用
 - ★卒業後支援会議（11月）で、卒業後の生活について話し合う（進路・担任・保護者・事業所・相談機関・福祉課）
- ◆ 全学年～放課後等デイサービス、ショートステイ 日中一時支援などのサービスの利用

3 本校高等部の進路の課題

本校高等部の進路指導における具体的な課題として、①進路先の選択肢が少ない（函館市以外の地域、医療的ケア、入所施設）②サービスの内容の改善と充実（活動や食事、移動支援の整備など）③本人・保護者の意向把握（保護者との連携、巡回指導の充実など）などが挙げられる。



4 まとめ

以上の課題を解決するためには、学校・家庭・地域の連携・協力が必要である。具体的にはPTAや関係団体等を通じて、一人ではなくみんなの声として要望を伝え続けること、本人のための適切な進路選択・決定に向けて、実習先との連携や保護者への適切な情報提供を行うことなどが考えられる。

進路の課題だけではなく、卒業後の地域での安心・安全な生活を送るための課題として、災害時の協力体制や医療機関との連携（小児科から内科への移行）などについても考えていく必要がある。

